



NPO太宰府障害者団体協議会

理事 藤井智子さん

理事長 森口忠彦さん

（田中さん）平成28年に障害者差別解消法（以下、法律）が施行されました。令和4年の内閣府の世論調査によると、障がい者差別があると答えた人の割合は88・5%、法律を知らないと答えた人は74・6%と厳しい現状です。（森口さん）法律の制定前には、もっと明らかな形で差別があり、障がい者はとも苦勞していました。最近では少しずつ理解が深まっていますが、障がい者自身はまだまだ社会に出て生きづらいと感じているようです。



太宰府市身体障害者福祉協会
会長 田中立夫さん

（福社課職員）合理的配慮は、障がいのある人が障がいのない人と平等に社会生活に参加できるように、障がいの特性や困りごとに合わせて配慮をすることです。皆さんが合理的配慮が必要だと思えばあります。（田中さん）わたしは電動車いすを使っていますが、買い物時、入口に商品がたくさん並べられ店内の通路も狭い店舗で入店を断られた経験があります。別の店に行き買い物するように言われました。市役所の多目的トイレも過去は一人では開けられない手動ドアでしたが、現在は自動ドアになって助かっています。駐車場のアップローチも広く屋根がついて、とても良くなりました。（秋田さん）全盲の人で、毎日電車



太宰府市身体障害者福祉協会
副会長 秋田頼子さん

で仕事に通う人がいます。長年の経験や勤、時には知人の助けが頼りです。仕事が終わって疲れていると感覚が鈍って駅の中で自分の場所がわからなくなる時もあります。駅員さんがいない駅だと手助けを頼むことができません。（藤井さん）音や光が苦手など、障がいがあるからではない人もいます。知的障がいのある人は漢字が読めない場合もあるので、ふりがなをつける配慮が必要です。精神障がいのある人は波があつて仕事に行けずサボっていると思われることもあるので、雇用している事業所にも理解してもらえると良いのですが。（森口さん）合理的配慮にも限界があつて全てが可能だと思いませんが、対話してお互いの考えを擦り合わせていくことは大事です。障がい者自身も、困ったことがあれば自分の状況をきちんと伝えて、聞く人も耳を傾けるのが当たり前になると良いです。



NPO太宰府障害者団体協議会
理事 金子史郎さん

（金子さん）障がい者週間の特別事業として、12月7日（午後1時～3時）に、総合体育館（とびうめアリーナ）で、台湾で起きた地震の事例から学ぶ災害時要配慮者の防災対策についての講演会を開催します。（詳しくはP31に掲載）障がいのある人も、障がいへの理解を深めたい人も、関わるきっかけとして参加してほしいですね。

日常にある合理的配慮

話し合うこと「合理的配慮」

障害者差別解消法が改正され、本年4月1日から事業者に対して障がい者への合理的配慮の提供が義務化されました。このことをテーマに、障がい者の社会参加を支援する皆さんに話を聴きました。



理解する



話し合う

12月3日～9日は

障がい者週間

問い合わせ 福祉課 障がい福祉係 (☎内線364)

共に生きる



あす・ラック工場の皆さん

「身近な合理的配慮」

例えば

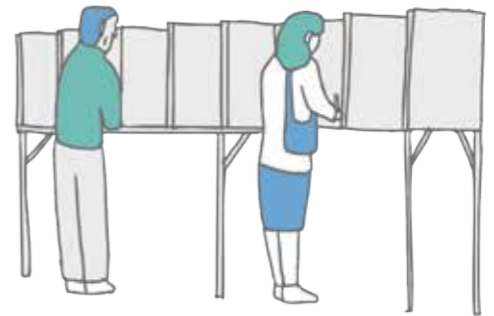


- 公共交通機関の駅にエレベーターがある
- 駅のロータリーが広くて使いやすい



- 車いす、電動車いすで入店できる
- 身体障がい者用駐車場が入口の近くにある

普段の生活の中にも、合理的配慮ができる場面はたくさんあります。働いている職場でも、周囲で合理的配慮が必要な場面がわかれば協力することもできます。日常の中にある合理的ではないことに、気づくことから始めてみませんか。



- 選挙で点字投票ができる
- 自分で書くことが難しい人への配慮がある



- 会話が難しい人には、筆談やコミュニケーションボードを使う
- オペレーターが「手話・文字」と「音声」を連携する電話リレーサービスを使う



- 病気の症状や治療方法を紙に書いてわかりやすく説明してもらえる
- コミュニケーションボードで意思確認する



- 光やチャイムなどの大きな音が流れる場面では、事前に伝える

あす・ラック工房をのぞいてみた

総合体育館（とびうめアリーナ）横のスポーツ振興事務所1階にある太宰府市地域活動支援センター「あす・ラック工房」は、平成24年からスタートして、本年で12年目。P7で掲載したNPO太宰府障害者団体協議会が運営しています。

市内の障がいを持つ人々の憩いの場、交流の場として、「心と体を癒す居場所」を提供しています。軽作業や音楽鑑賞・習字教室などの創作活動、まつりへの出店などの地域とのふれあい活動を通じて、参加者同士が仲良く楽しくコミュニケーションを取っています。



利用方法

毎週月曜～金曜（お盆・年末年始を除く）の午前9時～午後3時に開所しています。まずは電話で問い合わせ、見学に来てください。利用を希望する人はスタッフと相談して会員登録しましょう。

☎ (925) 88809
 ✉ d-shogai-npo@asu-luck.com

ある日の様子



①まずは入口へ
とびうめアリーナの横の建物の1階、「太宰府市障がい者地域活動支援センター」の看板が目印です。



②ウォーミングアップ
集まったら、頭・体の体操でウォーミングアップします。「季節のごちそう」「魚の名前」「自分にごほうび」などをテーマにアイデアを話します。



③軽作業をします
企業などから依頼された作業をします。この日は、自動車部品に関わる作業。あす・ラックが取り組むダンボールコンポットの製品づくりもします。



④相談もできます
スタッフに悩みや話を聞いてほしい時は、相談室でお話できます。

利用者の声を紹介



きき つぐみ 喜々津仁さん
週に1回、火曜日に通っていますが、みんなと一緒に作業することがとても楽しいです。最初は作業が難しいこともあったけど、慣れてスピードもどんどん速くなっています。今日は自動車のライトの配線を作成しました。みんなと一緒にお茶を飲んだりして交流することもとても楽しいです。



やまとかずこ 山戸和子さん
私は15年前、あす・ラック工房が小規模作業所だったとき誘ってもらってからずっと通っていて、現在は週に3回通っています。施設のスタッフもとても優しく、みんなと作業することが楽しいです。みんなで出かけたイベントに参加することをいつも楽しみにしています。

ほかにもこんな施設があります

障がい者基幹相談支援センター

太宰府市役所内に障がいのある人やその家族、関係者の相談窓口として設置しています。生活に関わる困りごとの相談を受け付け、必要に応じて関係機関と協力しながら支援します。

開所時間 月～金曜（祝日、年末年始を除く）の午前8時30分～午後5時
 場所 市役所1階福祉課障がい福祉係8番窓口
 連絡先 ☎ (921) 2121 (代表)・内線365
 ☎ (925) 0294
 ✉ fukushi@city.dazaifu.lg.jp

つくしぴあ

障がいのある人が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう、筑紫地区自治振興組合がさまざまな支援をしています。

利用対象者 筑紫地区に居住するまたは筑紫地区の事業所などに勤務する精神障がい者
 支援内容
 ・日常生活や制度の相談
 ・仲間づくり
 ・地域との交流
 ・就労支援
 住所 春日市春日公園5-14-1
 開所時間 月～土曜の午前9時～午後6時30分（日曜・祝日・年末年始は閉館）
 運営 社会福祉法人野の花学園 ☎ (592) 6800 ☎ (592) 6802
 ✉ tsukushi-peer@nonohana.or.jp

理解すること

走ることが 障がいへの理解を広げる

本市在住・視覚障がいを持つ道下美里選手が、パリ2024パラリンピック視覚障害女子マラソンに日本代表として出場し、見事銅メダルを獲得しました。

後日、銅メダル獲得の報告のために道下選手と夫・孝幸^{たかゆき}さんが太宰府市役所を訪れました。集まった市民や関係者、職員の約100人から出迎えられました。(写真①)

2008年にフルマラソンを始めて、どこまでも努力を続ける道下選手。自身の頑張り、障がい者スポーツへの理解を広めることにも繋がると語ります。未来の活躍を夢見る後輩アスリートから相談を受けた時、経験を通じて、結果を残すことが周りの環境を変えると伝えました。

道下選手の活動の原動力には、並々ならぬ使命感がありました。



本市在住・道下美里選手の活躍



- ②道下選手を応援しようと市民や関係者が集まったパブリックビューイング
- ③練習をする道下選手
- ④市民や関係者の前で、銅メダル獲得を報告する道下選手

プロフィール／「みっちゃん」の愛称で親しまれる、太宰府市在住で日本が世界に誇るマラソンランナー。2014年日本記録更新、2016年リオデジャネイロパラリンピック銀メダル獲得、2020年世界記録更新、2021年東京パラリンピック金メダル獲得など多くの功績を残している。東京パラリンピックで市民に大きな勇気と感動を与えた功績が讃えられ太宰府市初の市民栄誉賞を受賞している。

最後に

福祉課職員のおつぶやき

8年前に障害者差別解消法が施行されましたが、いまだ変わらない現実がもどかしい。障がいがあってもなくても、すべての人は同じようにかけがえのない大事な存在です。このことをどう伝えれば、目の前の現実が変わるのか考えて、今回の特集を企画しました。

すべての人に、人格と個性があります。それは固有で異なるものかもしれません。強い、弱い、硬い、柔らかい、明るい、大人しいなど。一人一人違った性質があるかもしれません。自分と違う、みんなと違うものを排除すれば、安心でしょうか。自分が少数派であつたら、ないがしろにされて当然なのでしょう。もう一度、自分に問いかけてみてください。

相手の存在を知り、理解しようとすることは、難しいことはありません。アスリートであっても、高齢者であっても、男性でも女性でもどちらでなくても、障がいがあってもなくても。みんなで構成しているのが社会です。

この特集が、同じ太宰府市で暮らす誰かのことを思いやる合理的配慮について考えるきっかけになることを願います。